

第2回 鎌倉市学校整備計画検討協議会 議事録	
日 時	令和4年(2022年)10月4日(火)10時00分から12時00分
場 所	鎌倉商工会議所1階102会議室
出席委員	黒木委員、佐藤委員、實方委員、倉斗委員、高橋委員、梨本委員、河合委員、中尾委員、渡辺委員
欠席委員	-
出席した職員 の職氏名	岩岡教育長、佐々木教育文化財部長、茂木教育文化財部次長兼教育総務課長、下澤学校施設課長、萩原学校施設課施設担当担当係長、渡辺学校施設課施設担当主事
議 題	(1)新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

事 務 局 (下澤課長)	(開会に当たり、協議会委員9名中9名の出席により、過半数である定足数に達していることを報告)
高 橋 会 長	第2回鎌倉市学校整備計画検討協議会を開会します。
内容 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について	
高 橋 会 長	事務局から説明をお願いします。
事 務 局 (下澤課長)	<p>前回の会議では、今後の進め方として、今年度委託している支援業務の成果等を示しながら、適正規模・適正配置、学校施設の標準仕様、緊急を要する学校施設などについて、幅広い議論をお願いしたところです。</p> <p>その中で、文部科学省が1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等に向け、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方及び推進方策について、高橋会長、倉斗委員が御参加されていた有識者会議において議論を進め、報告書として取りまとめた「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」に、少し触れさせていただきました。今後、「学校整備計画」の検討に向けた幅広い議論を進めていくに当たりましては、委員の皆さま、事務局とも、新しい時代の学びを実現する学校施設の姿を共通認識して、同じ方向を向いて議論を深めていく必要があると考えております。そこで、本日は、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」を倉斗委員に御説明していただく場とし、前回に引き続き、勉強会のような形とさせていただきます。</p>
高 橋 会 長	事務局から説明があったとおり、委員の皆さま、事務局とも、新しい時代の学びを実現する学校施設の姿を共通に理解する必要があると思っています。それでは、倉斗委員、よろしく願いいたします。
倉 斗 委 員	千葉工業大学の倉斗です。簡単に自己紹介をしますと、建築の分野で勉強していますが、高校受験までは小学校の先生になろうと思っていました。そのようなこともあって建築の分野でも小学校のフィールドの研究を続けています。今日は先ほど紹介のあった文部科学省が昨年度末に発表した「新

しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」ということで、お手元にも分厚い資料があって、文字としては皆さんも御理解していただけると思いますが、具体的などようになるのだろうというイメージがなかなか浮かばないと思いましたが、今回は、こんな学びの姿になっていくという事例を紹介しながら皆さんと理解を深めていけたらと思います。まず資料の2ページで前提となる、令和の日本型学校教育の姿が掲げられています。これはコロナだからこうなったということではなく、コロナ以前からこういったことが議論されてきて、2020年から新しい学びがスタートするのだと準備されてきました。「子供の学び」は「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「主体的・対話的で深い学び」、これは我々がアクティブラーニングと呼んでいるものです。そして「ICTの活用」といったものが準備されてきました。もうひとつ「教職員の姿」とありますが、先生の働き方ということが非常に課題となってきて、新しい学びを実現するサポート役としての先生方の働き方を見直していくべきではないかということも議論されていました。そして、こういった教育を支える学校という施設をどのようにしていくかという三本柱が示されています。

これを受けて、新しい学校施設が議論されており、これは報告書にある図ですが、上に向かって新しい時代の学び舎として整備を進めていくというイメージ図になります。木は根がしっかりと生えないと上に伸びていけないので、ベースとして安全・安心そして環境整備が必要です。これはいろいろな自治体があって、財政面が厳しいということもある中で、財政上できる範囲でやっていくとなったときにまず根の部分をしっかりときせ、その上で少しずつ上に向かって伸びていくような木をイメージしています。

老朽化が進んでいる校舎が非常に多くなってきていますが、安全というのはそういった中で老朽化対策として長寿命化を図ったり、改築をしたりすることで子供たちの生命、健康を守るための環境整備が大事であると言われていています。それからもう一つ非常に重いテーマになりますが、脱炭素社会に向けてゼロエネルギービル（ZEB）といった形の建物に変えていかないといけないということも課題としてあります。我々の時代の学校は冷暖房もほとんどなく、ほとんどゼロエネルギーのような建物でしたが、暑さ対策などで付加しても、建物は古いままなので、例えば断熱が効いてないと断熱用のサッシになっていないというように、建物としてはアンバランスの部分があるので、建て替えるときには改善していこうという部分もあります。この部分がベースとして地球環境を守るということと、子供たちの生命や健康を守ることがあった上で、この上にある生活やという新しい学びに向かって環境整備をしていくことをこの報告書の中で言っています。これまでは学校を建てる時はこういうことを考えないと

いけないということが体系的に教科書に示されていましたが、今は考えないといけないことが出てきて整理しきれないことが分かっています。その中には多様性ということも入ってくるし、国際社会に向けてという話も出てきます。それから地域や社会、コミュニティと学校の関係も広がって来ているので、地域社会全体で子供たちを教育していくといった考えに基づくと、そこで新しい課題も出てきます。建築的にはハード面で見ると老朽化のことで、ゼロエネルギービルにしていけないといけないこと、木質化といった木材を多く使っていくという課題も出てきます。非常に多岐にわたる課題を解きほぐしながら学校を創っていく時代に入っていくということです。特に私が注目していることは、新しい学習指導要領の中で、学力という言葉の定義に注目しています。学力というと、どうしてもテストの点数や偏差値をイメージしがちですが、報告書の中では思考力や判断力、学びに向かう力、興味、関心を持つという定義です。また、コミュニケーション能力を含め、学ぼうとする意欲みたいなものを全部含めて学力と呼ぶということが示されています。この学力は環境でも向上させることができるのではないかと考えていて、今日はアクティブラーニングの事例をお見せしたいと思います。複雑な課題があると申し上げましたが、メディアでもVUCA（ブーカ）の時代と言われていて、これはこれからの時代を指して将来の予測が困難な時代のことを呼んでいます。こういった時代に立ち向かっていく子供たちを教育していく場として、新しい学びへ転換していかなくてはいけないということで学校施設の教育も変わろうとしている背景があります。2020年からの新しい学習指導要領では、どのように学ぶかという点を重視して授業を改善しますと書かれています。これまでの学習指導要領では何を学ぶかが示されてきましたが、ここではどのように学ぶかが示されたので環境をきちんと考えていかなければならないということになります。学び方として、主体的・対話的で深い学びをどのように解釈して環境を作ればいいのか考えてみました。先生が授業をして子供がそれを聞いて、みんなが基本的には同じことをするスタイルがこれまでのものでした。これが主体的・対話的で深い学びということになると、授業風景を写真に撮ったときに、全然違うことをやっている子供がたくさんいる状況であると解釈しました。我々としてはアクティブラーニングが導入されていくのであれば、教室が教わる場所ということを再考しなければいけないので、環境を変えることで子供たちの学びの選択肢や学び方の多様性を広げていかなければならないと思いました。先進的にそういったことに取り組んできた千葉県の学校を紹介したいと思います。オープンスクールと言われる教室が開かれた形の学校になります。ここでは、算数の単元を子供たちに全て任せてみようという実験的な取組が行われました。2年生5クラス合同の授業として、子供たちが学びたいコースで課題に取り組むと

いうことを行いました。教科書に沿って問題を解きながら順序立てて進めていくコースと算数に苦手意識があるがものづくりや折り紙が好きな子は手を動かしながら図形を学ぶという二つのコースを作りました。授業が始まると子供たちは自分の課題のプリントを取って、好きな場所で演習に入り、分からない問題があると、先生がいる質問コーナーという場所に行って話を聞くという形式です。担任の先生は丸付けコーナーという場所において、演習が終わった子供はそこに集まります。先生方は、子供たちが間違えやすいポイントが分かってくると、そのヒントを作って貼っておいて、それを子供たちが見に行き、それを頼りに問題を解くということをしています。子供たちは、隣の友達はドリルを解いていますがもう一人は折り紙を作業していて、非常に静かにしています。実験的にやってみた授業ですが、2年生でも集中して取り組んでいたことが分かったので、6年生でも同じ取組を行ってみました。6年生は国語と算数合わせて20時間分の授業を子供たちに委ねてみました。国語が好きな子供は最初にそれを終えて、残った時間で算数をやるという子もいれば、1コマの最初の20分で算数をやって、残りの25分で国語をやるといった子もいました。先生も授業中は歩き回って、分からなければ声をかけてもらうようにしています。20時間分の授業が終わったのかを聞くと、授業で教えるよりも皆早く終わったという結果で、子供たちが主体的に集中してやっていることで進みが早いという結果でした。先生方の仕事としては、歩き回ってサポートをしてあげることによりプラスして、学習の教材や環境を作るということになります。2013年頃に見た事例ですが、こういったものがこれからの学びになると思いました。

現在、私の研究室でやっている活動をご紹介します。板橋区にある改築した学校にオープンスペースがあるのですが、荷物置きとして使われていました。そこを主体的な学びの空間にしたいという相談を受けて、3年生の先生と共同でどのようにすればいいか考えました。ユニット畳を置いてみたり、段ボールの板を買って、1人ずつのブースを作ったりしました。そうすると、子供たちが教室からオープンスペースに移動してきて、家で勉強しているような感じで和やかに学んでいました。また、立ったまま学習したい子もいたので、廊下の突き当りにいらなくなったロッカーを置いて、そこで学習できるようにしました。皆が教室の外に出るわけではなく、半分くらいは残って授業に取り組んでいるのですが、教室に残っている子がしゃべっていて、オープンスペースにいる子は集中して静かに勉強に取り組んでいる様子が見られました。居場所づくりをしてあげるだけでも、子供たちは自分にあつたスタイルを探そうとするということが分かってきて、それに伴って先生のやる気も上がってきて、教材を置いたらどうなるかということを行ってみました。そうすると、休み時間になると教材を置

いた場所が人気のコーナーになり、学ぼうとする力に繋がっていくのではないかと思いました。それから、1年生と3年生と5年生の休み時間の行動観察を定点カメラで追ってみました。1年生は昼休み中に、83名中36名がオープンスペースに立ち寄って、平均滞在時間は4分でした。3年生は98名中33名で、平均滞在時間は9分でした。何も家具を置いていない5年生の空間は78名中9名しかオープンスペースに来ないという結果でした。居場所を作るといことも主体的な学びを促すきっかけになるのではないかと分かりました。

少し話は変わりますが、現在、タブレットが一人一台配られていて、昔にはなかった授業の光景が見られるようになりました。そうすると、例えばある教室では黒板を使うし、大型ディスプレイも使うし、子供たちも各自タブレットを持っていて、机の上には紙もあるという状況です。いろいろなことが一度に進行しているので、先生からは机が小さいという話が出ています。また、教室が明るすぎるとい意見を最近よく聞きます。日本の学校は出来るだけ南向きに窓を設置して、右手で文字を書くように指導していたことが多かったので、左側から日光が当たるように設計するように建築の人間は学んでいました。しかし、電子機器が増えてきた最近では、プロジェクターや大型ディスプレイなどは眩しくて見えにくいということが多発します。そのため、昼間でもカーテンを閉めるような状況が出てきています。それから、先生が授業をしていて演習問題を解く際に、分からない人はヒントの動画をタブレットで見てもらおうようにするのですが、そうすると問題に集中したい子もいれば動画を見たい子も出てくるので、例えば動画を見たい子は教室の外で見てもらおうようにします。こういった個別の音源が多発するということも最近よく生じていることです。タブレットの置き方についても、机の平面に置いている子もいれば、立てかけて置く子もいます。これは子供の上に照明がある場合、平面に置いてしまうと見えにくいので、立てかけて見ていると思います。こういったこともこれから学校の設計や建築をする際に考えていかなければいけないと思いました。新しい時代の学びを実現する学校施設という報告書の中に、「学校全体を学習環境に」という言葉が頻繁に出てきますが、教室だけではなく、廊下や特別教室もいろいろなところが学びの場になっていくということが示されています。子供たちが学び方というものを自分で選び、その時にふさわしい場所を選んで勉強することになっていくと、教室に縛られなくていいということが分かってくると思います。一方で、ゼロエネルギービルというような新しいミッションも加わると、全館空調になどいろいろな課題が出てきます。その時に環境にやさしくて、かつ快適にどこでも勉強できる建物をこれから目指すためにどうしたらいいのかを考えていく必要があ

	ります。そういったところが新しい学び方のための施設とは何かという話になります。ここまでで御質問や意見、感想があればお願いします。
高橋会長	小学校の事例が多かったと思うので、河合委員いかがでしょうか
河合委員	学びに向かう力を環境で向上させることができるし、そういう工夫が必要なのだと実感しました。
中尾委員	10年ほど前の取組の事例だったのですが、現在はその学校はどうなっているのでしょうか。
倉斗委員	当時はアドバイザーが入って指導しながら進めていたので、それと同じようにやってもらうことは難しいとは思いますが、環境づくりという面では定期的に我々もワークショップを行ったり、夏休みに先生と話したりしているので、子供たちが学べる環境は作り続けていると思います。
梨本委員	素晴らしい事例の紹介をありがとうございました。鎌倉市でもぜひ実現していただきたいと思います。それには先生方の加配なども必要になってきて、市全体で力を入れていかないと難しいと思いますが、実現できると良いと思います。
黒木委員	正直なところ驚いた事例紹介ばかりでした。自分の子供がその中に入ったときにどういう行動をするのか、伸びていけるのか、人に迷惑を掛けないだろうかと感じました。自分の学生時代の生活が基準になっていたのでカルチャーショックを受けました。この協議会に出ていなかったら世の中がこういう動きをしているということも気付かなかったと思います。
佐藤委員	2年生の子供がいて、自分の子供だったらこう過ごすだろうなというのを考えながら聞いていました。時間内に質問があったら先生が答えるということでしたが、ヒントを作ったりするのは授業の時間外でやっているとしたら先生の残業時間は大丈夫なのかということが気になりました。学校の建替えや仕様などを考える中でより良いものができるの良いなと感じました。
實方委員	コロナの影響で保護者が学校に入っていないので、先生方の負担がかなり増えている中、御紹介していただいたような事例を今回知ったので、保護者からも学校に参加して、子供たちがどのように学んでいくかを理解する必要があるなと思いました。それと、ICTが始まって同じレベルで活用できない先生もいると思うので、そういうところのフォローも施設が変わることで負担を減らすことが出来れば良いなと思いました。
渡辺副会長	学ぶ環境、教える環境の変化に伴って施設も変わっていく必要があるということがよく分かりました。学ぶことに対して子供が選択するという話がありましたが、その結果として学習の理解度や習熟度はどうなったのでしょうか。自由に学ぶスタイルで授業を行った方が、学習効果が上がるということであれば素晴らしいと思うのですがいかがでしょうか。

倉斗委員	<p>習熟度や学力が上がっているかについては、その学力というものが何なのかというところから我々は考えていかなければいけないなと思っています。今の御紹介した事例の効果としては、学びに対して興味を持つとか自分でどうやろうか考えることができる、ということを目指していると思っています。その効果が習熟度という形で出てくるのは何十年先か分からないですが、学び続けようと思うことや分からないことは調べてみようという力は付いていくのではないかなと期待して、私自身学校の設計を行っています。</p>
高橋会長	<p>難しい話ではありますが、子供が多様であるということは近年はっきりしていますので、自分が落ち着くところで勉強しようというのが一つの考え方だと思います。私自身は、コンピューターが入る前に自由な学習を行うのは非常に厳しいのかなと思っていました。最近は一人一台のタブレットが配備されて、使い方にもよると思いますが、非常に状況把握がしやすくなりました。私が関わっている小学校や中学校ですと、先生が理解してくださると、認知的にも運動機能的にも非常に発達している中学校の方が変化は早くて、実際にはあっという間に生徒に力が付くと思います。今年是一人一台のタブレットが用意されて初めての学力調査がありましたが、すごく成績が上がっていて、中学校の先生によっては懐疑的な方もいましたが、考え方が変わってきています。そういった学校でも建物が良いところばかりではなく、スペースが不足しているところもありますので、何かのときのためにスペースが広いというのは非常に重要だと思います。</p> <p>それでは倉斗委員、続きの御説明をお願いできますでしょうか。</p>
倉斗委員	<p>私たちが施設的环境を作って、理想的に言えば自由学習ですとか子供たちが多様な学習に使ってくれればいいと思うのですが、そうするためには先生方の力が不可欠になります。いろいろなことを考慮して設計をして学校を作っても、実際に学校が出来たときにこちらの意図したように使われていないこともあります。だからといって先生がさぼっているということではなくて、先生方は本当に忙しいと思っています。先生方を何とかしていかないと、子供たちの学びを変えていくと言っているだけになってしまうなと思っていて、働く環境を良くしていくための取組をしています。2020年の春からコロナ禍で否応なくオンラインの授業が始まり、こういったことに対応するために更に忙しくなっています。非常に深刻なのは教員採用試験の倍率が年々落ちていて、岐阜県では今年の夏の試験で2倍を切ったということが大きく報道されていました。このままだと先生になる人がいなくなってしまう心配も出てきました。先生方の働き方の変化として先生方の学校における働き方改革という答申もあり、残業しないように管理していくことや業務内容の見直し・改善ということで、国から補助金が出て学校の手伝いをしてくれるスクールサポートスタッフを入れたりしていま</p>

す。業務時間の削減やスタッフの導入という動きはありますが、環境面から変えてみたいと思い私どもが調査を行いました。職員室の様子は我々が学生の頃と変わっていませんが、一方でオフィスはすごく変わってきていて、在宅勤務を行う企業も増えてきましたし、その前からアクティビティ・ベースド・ワーキングと言われる自分の活動に併せてカフェのような場所で仕事をしたりブースのような場所で仕事をしたり選べる環境を作るという動きがあります。子供が今の職員室を訪れたときに、将来こういうところで仕事がしたいと感じるかなと思い、ある自治体でアンケート調査をさせていただきました。その結果、A区では机の配置について8割以上が昔ながらの島型といわれる配置で、B区でも9割以上がそのような配置でした。改築した板橋区の学校では、将来的にマンションが建ったりしてクラス数が増える可能性があり、先生も増える可能性もあったので、それを考慮したり、先生方が机に書類を積むことで重要書類を紛失するというリスクを減らしたり、限られたスペースでリフレッシュできるような環境を考えたりといった視点で考え、フリーアドレス化を提案して、教育長がやってみようとおっしゃってくれました。その結果、職員室をフリーアドレススタイルのワークテーブルにしました。ただ、実際には学年の島というのは重要なので4人の席に1学年の先生全員がいます。完全にフリーには出来ないのです、学年で島を作って、2週間ごとに席替えという運用をしました。そうすると2週間ごとに荷物を動かさなければいけないので、あまり荷物をため込めなくなります。完全にフリーにできない理由としては、先生方はタブレット端末を持っていますが、公務用のパソコンはセキュリティー上、無線LANに繋げなくて、有線を使わなければいけないというルールがあったためです。そういった中でフリーアドレス化した学校と従来型の学校で比較して調査を行った結果、1日の職員室滞在時間の記録を見ると、担任を持っている先生はクラスにいるので、日中職員室にいらっしゃるのには副校長先生や栄養士やスクールサポートスタッフの方で、電話番をしているような状況でした。これを板橋区の教育長が見た際は、いかに学校の人数が少ない状況かということをおっしゃっていました。フリーアドレスにした場合、定期的に場所が変わるので、この机がああ先生の席だから座れないという意識があまりなく、空いていれば座ってその場で打合せが行いやすいとの意見があり、ちょっとした変化でも有効的に空間が使われるということが分かりました。インタビュー調査をしたところ、交流が必要なのでなるべく作業は職員室で行うという方もいれば、フリーアドレスにして引き出しがない机だと仕事しづらいので教室でやる先生もいました。また、パソコン作業だとお互いにやっていることが分かりづらいので、コミュニケーションが取りづらかったが配置を変えると話がしやすいという意見がありました。こういった新しいスタイルの職場をどう感じる

	<p>か聞いてみたところ、物を片付けることに苦手意識を持っていた方も、否応なく片付ける必要が出てきて実際にやってみたら思っていたより整理できたという方がいたり、打合せや話しがしやすいという意見がありました。一方で、引き出しがないと不便、自分の席にしたいという意見もあり、フリーアドレス以前に職員室という場所は先生方の交流や共有などのコミュニケーションの場として重要だということが分かってきました。どんな学校でも机が狭いとか物が置けないということは皆言っていて、あとは、周りの声があり集中したい仕事をする際には不便な場所なので静かな場所を探して作業しているという意見もありました。一方で、声がある分いろんな情報をそこで得ることができるというメリットがあると捉えている先生もいました。別の調査では、雑談が多い職員室は学力が上がりやすいと言われています。</p> <p>最近では、建築として作っている空間にプラスしてオンライン上の教室を使っていけるような時代になっていると思います。これはコロナ禍だからという訳ではなく、今後はそのような時代になると思います。オンラインの良さはとしては、いつでも録画したものが見られることやカリキュラムに沿って決まったプログラムを足していくということで、デジタル分野の得意なことかと思えます。一方で、雑談をしたり他の子の声が聞こえてきたりして、それがヒントになるということは実空間が得意とすることだと思えます。両方を上手く取り入れた学校を作っていくということがこれから必要になっていくと思っています。特に小学校や中学校という学び方を習得していくという時期の子供にとって、学校施設を見直していくことは重要だと思っています。私がまとめた資料の説明としては以上になります。</p>
高橋 会長	<p>ありがとうございました。具体的な事例を見せていただきイメージが出来たと思います。私がこれまで参加した協議会などでは、子供のことを中心に考えることが多く、それはもちろん良いのですが、先生にしわ寄せがいつてしまうことがあるので、今回、先生視点から御説明を頂いたのは非常に大きなことだと思えます。御意見や感想を頂ければと思いますがいかがでしょうか</p>
實方 委員	<p>子供たちが生活する場であり学びの場でもありますが、学校に一番長くいる先生の場所でもあり、授業に向けていろいろな準備をされるかと思うので、先生方が過ごしやすい学校の環境が整えられると良いと感じました。</p>
佐藤 委員	<p>授業参観に行っても、そのたびにモニターに映し出されるものを準備して、先生方には感謝しなければいけないなと思っています。去年までは自分の子供は18人くらいの少人数のクラスでしたが、今年から人数が変わり35人になり、これが6年生になると非常に教室が狭くなってしまいますので、空間を作るのはとても大切だと思いながら聞いていました。</p>

黒木委員	<p>学校の先生は本当に大変だと思っていますが、一方で保護者も変わってきたと思っています、時代の変化なのか先生の求めることも懇談会で聞いていて驚くようなことがあったりします。物理的な負担もそうですが、心理的な負担もすごく大きいと思っています。保育園や小学校、中学校の先生が休職したりすることがあって、いろいろなことが進んでいくために先生の負担が増えてしまう面もあると感じました。</p>
梨本委員	<p>様々なことを実現するために先生の数を増やして、また、空間としても充実した所になると良いと思います。例えば先生とタブレットと教科書だけで学ぶのでは少ないので学校図書館の利用も大切だと思います。資料室のような所を充実させて、先生が過ごせるスペースとしても資料の宝庫として利用できるのが大切かと思いました。また、いろいろな子供がいると思うので、その対応が必要だと思います。進路別のコースに分けた場合、勉強のペースが合わずに嫌いになってしまうということもあると思いますし、学力的に低めであったり、人とかかわるのに慣れていなかったりする子供は支援が必要な場合があったりと思うので、そういったフォローができる環境が作れると良いと思いました。</p>
河合委員	<p>教職員の環境まで考えてもらえるのがありがたく感じました。職員室の席替えというのは、こういう考えもあるのだと新鮮に感じました。机に引き出しがないのは少し不便かと思いましたが、分掌ごとの打合せは教室を使ったりしているので、固定された席でない職員室でも打合せが出来ると良かったり、しかし自分の机がないと不便かとも思ったりしました。職員室はチームワーク作りの場であり、子供たちについての情報交換の場でもあり、教材研究についてお互いに教えあう場でもあるので、そういった点でも職員室で快適に仕事ができるとありがたいと感じました。</p>
中尾委員	<p>映像で御説明を頂きイメージが湧いてとても分かりやすかったです。雑談と笑いがある職員室というのを目指して、先生たちが元気で前向きになれるということは子供にとってもとても良いことだと思います。職員室の机は昔から同じ形で、他の企業の方の話を聞いても取り残されている感覚はあるので変わっていく必要があるなと感じています。雑談がしやすい環境で、先生も職場に来るのが楽しいと思ってもらえることはとても重要だと思いますし、大変な仕事に対してもやりがいを感じて取り組んでもらえると思います。例えば職員室と特別支援学級の職員室が今は場所が違ったり、校長室も職員室と違ったりはありますが、今日の説明を受けて、何かをやってもらう以外にも、自分たちの中でもレイアウトなど具体的にできることがあると思いました。</p>
渡辺副会長	<p>先生方の働き方改革や施設面を変えていくということが必要だと思います。職員室の形は何十年も変わっていないと思いますので、変えていく必要があると感じました。それと少し本題とは違う話かもしれませんが、先</p>

	<p>生方に情熱をもって教えてもらうためには保護者との信頼関係が一番大切だと思います。そういう意味では先生にとってもつらい時代かもしれませんが、例えば先生以上の学歴を持っている保護者がいると、言い方は良くないかもしれませんが、先生のやり方に疑問を呈する方もいるかもしれません。そのような中で信頼関係を築くのはとても難しいと思います。いくら職場環境を整えても保護者が変わっていかないと駄目だと思っています。例えば夏休みのラジオ体操はPTAの方が出て参加者に判子を押していましたが、PTAの参加者が減ってきて来年度から出来ないという相談が実際にありました。そのときは話し合いの結果、来年度も引き続き行ってもらうことになりましたが、保護者が変わっていく必要があると感じました。必要なのは働き方改革をして、先生方にやる気をもって仕事をしてもらうということだけではないと思います。</p>
高橋会長	<p>校舎のことだけではなく幅広い意見を聞きながら学校施設のことを考えていかなければいけないと感じました。人手不足や業務が多いという話は教員に限らずどの業種も求められていると思います。そういった中でいかに進めていくのかということだと思っています。国際的な調査から日本の先生の働き方を見ると、事務処理や部活などに極端に時間がかかっている、子供についての話し合いや授業の準備などにかけている時間は国際的に見ると低い水準になっています。また、別の調査によると、多くの場合、教員の数を増やすより給与を上げて優秀な教師にいてもらった方が効果が高いという結果が出ていますが、日本の場合、人数を増やす方向になってしまってもったいないという指摘もありました。また、例えば、東京都は服務規程で先生は電子メールを使ってはいけないというルールがあって、そんな中で校務の中では触れることの少ないICTの業務が出てきても、うまく使うのはなかなか難しいと思います。東京都はそういったサービスが多過ぎて自分たちで忙しい環境を増やしている面があると思いますし、それを変えていくのも大変だと思います。</p> <p>保護者も先生も子供も全員コンピューターを持つようになったのだと考えて、ゼロベースで見直していく部分があると思っています。授業にICTが入ったからそれについて学ぶ必要が出てきて時間がなくなると考えると仕事が増えていくだけなので、繋げて考えていかなければいけないと思っています。子供用のソフトを買うのではなく、先生方が普段校務で使っているソフトを子供が使えば、編集もいらぬし社会に直結するのでコスト的にも非常に良いと思っています。先生方にイメージしてもらいたいということによく話すのは、コンピューターが入ると仕事の順番が変わることです。例えば、マクドナルドでは席について席のQRコードを読んで注文して運ばれてくると思います。また、居酒屋などでもスマートフォンから注文できるので、誰かがまとめるという作業が無くなって好きな</p>

	<p>ものをそれぞれが注文できる形になっていて、順番が変わるとというのがトレンドになっていると思います。</p> <p>私の中では職員室の隣にある印刷室はなぜ必要なのかということがありまして、職員室の中にパソコンから直接打ち出せるプリンターを置いておけば、印刷室がいらなくなると思います。そうすればそのスペースを先生がリラックスする場所にすることもできると思います。職員室の隣に印刷室を置くという固定的な考え方から新しい時代の考え方に向かって物事を考えて、鎌倉の学校を考えていくことが大事なことだと思います。</p> <p>お手元の資料の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」について改めて内容を御説明させていただきます。第1章の新しい時代の学びの姿や第2章の新しい時代の学びの実現に向けて解決すべき学校施設の課題については、先ほど倉斗委員からも御説明を頂いた部分になります。第3章は、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について書かれていて、本格的な新しい時代の学校施設を実現するため、「Schools for the Future」というキーコンセプトがここで書かれていますが、例えば鎌倉市としてどういう学校を作りたいのかというキャッチフレーズやコンセプトがあると良いと思っています。建築の方と話をしてもキャッチフレーズが好きな印象があります。</p>
倉斗委員	<p>どっちが良いか判断に迷うときなどは、コンセプトや方針があるとそれに合ったものを選択するという考え方ができるので大事だと思います。</p>
高橋会長	<p>新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方の5つの姿の方向性ということで学び、生活、共創、安全、環境について先ほど御説明を頂きましたが、安全や環境が根っことして確保され中心となる幹に学びがあり、その学びを豊かにしていく枝として生活、共創の空間を実現するというイラストが載っています。また、第4章の学校設置者における推進方策では、長寿命化改修を通じた新しい時代の学びを実現するということや首長部局と協働した中長期的視点からの計画的・効率的な整備の推進、多様な整備手法等の活用と施設整備と維持管理の着実な推進、学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の推進ということが書かれています。学校設置者における推進方策というのはいろいろな地域で話が出ているかと思いますが、委員の皆さんと共有した方が良い情報はありますか。</p>
倉斗委員	<p>長寿命化改修がトレンドになっていて、そうせざるを得ない状況があると思います。本日説明させてもらったような学校をイメージしてこれからの学びに対応していきたいですが、実際には今の建物を延命させて使い続けるという財政的な課題が難しいところだと思います。蓋を開けてみたら長寿命化できなかったということが起こることもあるので、推進方策どおりにできるのか分からないということも頭に入れながら考えていく必要があると思います。財政的にはどこの自治体も逼迫していますが、良い学校</p>

	<p>を作ってあげたいとなった際に、一つの手法として民間活用という選択肢があり、PPPやPFIという、運営面や管理面を手伝ってもらいながら学校を作っていくという手法があります。そうすると複合施設にして民間企業がやっている施設と学校がセットであることでお互いにメリットがある施設を作っていくという仕組みが出てきて、これまでの学校像と違う形がここに出てくるかと思います。そういった財政的な事情も知っていただくの良いのかなと思います。</p>
高橋会長	<p>理想の学校像があっても財政的で苦しいということは残念ながらありますが、良い校舎が出来ると先生も生き生きと働いていて、子供たちにも良い影響があると思います。</p> <p>最後に中学校のビデオを御覧になっていただいて終わりにしたいと思います。この中学校は私も7年程関わっている学校で、コンピューターが入って2、3か月しか経っていない不慣れな時期にNHKの取材を受けた時のビデオです。</p>
	<p>～ビデオ視聴～</p>
高橋会長	<p>それでは本日は以上としたいと思います。事務局から連絡があればお願いします。</p>
事務局 (下澤課長)	<p>次第にありますその他については、本日はごいません。また、次回については、後日日程調整の連絡をいたしますので御協力をお願いします。</p>
高橋会長	<p>これをもちまして、第2回鎌倉市学校整備計画検討協議会を終了します。</p>